

れた「山口県教育大綱」の基本方針にもある。その内容は、吉田松陰と松下村塾のことを指しているが、吉田松陰に対する評価がさまざまある中で、「防長教育」とは何なのか。

原田教育次長

- ①率直な意見交換や意見決定の中立性を図る観点から静ひつな審議環境確保のため非公開にした。採択理由については、ホームページ等で公開している。
- ②「防長教育」とは「豊かな先見性・進取の気質・質実剛健の気風」などがその理念であるといわれている。これらの理念は、本県の教育の誇るべき伝統であり、未来にひき継いでいく貴重な財産だ。

佐々木

- ①「静ひつな採択環境」は理由にならない。どういった議論があって採択したのか説明責任がある。
- ②私の指摘した育鵬社の課題については、全然議論されていない。教科書によって、子どもの生き方・人生観・価値観、ひいては人格に大きな影響を受ける。採択した責任をどのように考えているのか。

浅原教育長

- ①国からの通知も、適切な審議環境の確保のため、会議の公開・非公開を適切に判断せよとなっている。
- ②教科書検定を通った教科書は、どれも教科書としての適正は確保されている。学習指導要



8月20日、県教育委員6名で4:2の結果、公民・歴史の教科書は育鵬社が採択されました。

会議は非公開で、議事録を情報公開請求しています。

教育基本法や教育委員会制度の改悪しかり、かねてから安倍首相は「教育」によって彼のめざす人づくり・国づくりに執心してきました。

昨年、その地方版ともいえるべき「教育再生首長会議」（全国121人の市区町の首長で構成）が結成され、会長は松浦防府市長です。

それにしても、吉田松陰（地元では「先生」と呼んでいます）を一方向的に評価し、その流れの中で「防長教育」なるものが山口県教育の誇るべき伝統とは、うす気味悪ささえ覚えます。

領に基づいて、各学校で適切な教育がされると考える。

教科書採択



県立学校の教科書は県教委で、市町立学校は市町教委が採択する。

今回の採択教科書は、各中学校が2016～2019年の4年間使う。

育鵬社を採択した地区

- ・県立高水中学校（岩国） } 公民
- ・県立下関中等教育学校 } 歴史
- ・岩国市和木町（前回も同じ）— 歴史
- ・防府市— 歴史

三、地方創生と県政の諸課題について

1. 県政世論調査の結果

佐々木

- ①調査結果は、各項目ともおどろくべき低い評価だ。山口県は、自然災害が少ない。食べ物おいしい、とはよく聞くが、施策の評価が低いのに住みたい、住み続けたい人が87.8%はなぜか。どのように判断しているか。

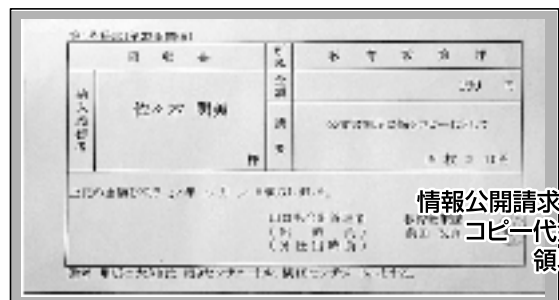
- ②各項目は、チャレンジプラン※や地方創生のとりくみと共通した施策だ。この調査結果や先般のチャレンジプランの政策評価の結果を受け、今後の課題ととりくみについてたずねる。

※「元気創出やまぐち!未来開拓チャレンジプラン」2014年度～2017年度の県政運営の指針

上野総合企画部長

- ①本県の温暖な気候や豊かな自然・風土、道路等のインフラ整備が進んでいることなど、総じて暮らしやすい環境が住みよさの実感につながっていると考える。

一方で、県のとりくみに対する低い実感や「どちらともいえない」という回答が多いことは、高い実施水準が求められていること、すぐに成果が現れない施策があること、成果がすぐに県民の実感に結びつかないこと、周知・PR不足などさまざまな要因があると考えます。



情報公開請求したコピー代金の領収書